

## 次期総合計画策定に係る市町村長との意見交換会（7、8月）における主な意見の反映状況（H31. 1. 18時点）

## 1 長期ビジョンに反映したもの

| No. | 意見   | 該当箇所   | 頁             |
|-----|--|--|---------------|
| 1   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・宮古圏域をはじめ<b>過疎地の医療格差</b>が大きい。この解消に向け、てこ入れをしてほしい。</li> <li>・県全体では医師数は増加しているが、県立久慈病院では常勤医が減っている。<b>医師の地域偏在の解消</b>をお願いしたい。</li> </ul>  | <b>第2章 岩手は今</b><br><b>3 岩手の変化と展望</b><br><br><b>〔強み・チャンス〕〔弱み・リスク〕の見直し。</b><br><br>（P12「健康・余暇」分野の〔弱み・リスク〕への具体的な人的医療資源の状況の追加など） | 11<br>～       |
| 2   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康」、「家族」、「所得」は<b>幸福の3つの要素</b>と言われており、こうした要素は<b>時代とともに移り替わる</b>ので、考え方を変える必要がある。</li> <li>・主観的指標をどのように施策に結び付けていくかについて、大変難しい課題であるとする。</li> <li>・人口と都市プロモーションは関連性があると指摘されており、<b>幸福度と一緒に前面に出していく</b>と計画が分かりやすくなるのではないかと。</li> <li>・人が生きていく上で幸せは大事なことで、<b>GDPなどだけでなく、数字に換算できない指標も今後は必要</b>である。</li> </ul> | <b>第3章 基本目標</b><br><br><b>「基本目標の考え方」を具体的に記載。</b><br><br>（P24県民意識調査での県民の幸福の実感の把握、幸福を守り育てるための政策体系の考え方を追記など）                    | 23<br>～<br>24 |

| No. | 意見  | 該当箇所  | 頁   |
|-----|---|---|-----|
| 3   | <p>・人の数が減るということは、人のエネルギーが減るということ。<b>個のエネルギーの減少を連携やつながりで補う</b>ことが重要と考える。</p> <p>・人口減少と高齢化、生産年齢人口の減少のもとでの<b>新たな産業構造の変化にどう対応するか</b>について、計画に考え方を明確に出すことが必要ではないか。</p>  | <p><b>第5章 政策推進の基本方向</b><br/> <b>1 政策推進の基本的な考え方</b></p> <p>・岩手県人口ビジョンに掲げる<b>人口の展望を踏まえる必要性</b>を記載。<br/> ・<b>総合的な産業政策を展開</b>することの重要性を記載。</p>     | 35  |
| 4   | <p>・総合計画は総花的になりがちだが、<b>元気が出るもの、メッセージが必要</b>と考えている。</p> <p>・<b>健康寿命について、健康と寿命の間に約10年の期間</b>があると言われている。この間は介護となるので、この期間を縮めることが重要である。</p> <p>・<b>GDPの取扱いについては、岩手県の経済力の状況から大事</b>なものであり、今後10年どんな経済活動をするかを掲げる必要があるのではないか。</p>                                      | <p><b>2 10の政策分野の取組方向</b></p> <p><b>10の政策分野それぞれに「主要な指標」を追加。</b></p> <p>(P36「健康・余暇」分野に健康寿命を設定、<br/> P53「仕事・収入」分野に一人当たり県民所得を設定など)</p>            | 36～ |
| 5   | <p>・どうしたら岩手を選んでくれるかを考える必要があるのではないか。<b>官民連携で人づくりをやっていくことを計画の前面に出す</b>べきではないか。</p> <p>・<b>第1次産業のあり様について、今まで以上に厚み</b>を持たせて示していく必要があるのではないか。</p> <p>・かつては、畜産で500億円という時代もあり、幸福だけではインパクトが少ないのではないか。<b>TPPなどで厳しい見通しである農業分野など、今まで目の届かなかった部分に光を当てる</b>必要があるのではないか。</p> | <p><b>政策分野の冒頭に、サブタイトルと政策項目をつなぐ文章を追加。</b></p> <p>(P42「教育」分野における、国内外や地域社会の様々な分野で活躍する人材の育成に向けた取組、<br/> P53「仕事・収入」分野に農林水産業が本県の基幹産業であることを明示など)</p> | 36～ |

| No. | 意見   | 該当箇所  | 頁        |
|-----|--|---|----------|
| 6   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>三陸鉄道の全線開通後、これを黒字に近づけるのが沿線市町村の課題</b>。県に引き続き支援をお願いする。</li> <li>・ 国策として進めている<b>森林環境譲与税に対する県の考え方</b>を示しても良かったのではないか。</li> </ul>  | <b>10の政策分野の取組内容を具体的に文章化</b><br><br>(P47第三セクター鉄道の安定経営に向けた取組への支援の記載、P63間伐や再造林等による適切な森林整備など取組の方向性の記載など)  | P36<br>～ |
| 7   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「あの人よりはいい」という相対的な幸福にならないように、幸福を守り育てるために<b>県民一人ひとりが何をするか、協力しようという組み立て</b>にした方が良い。</li> <li>・ みんなに<b>期待してもらい、参加してもらい意味からもワクワク感があるようなもの</b>を入れた方が良く考える。</li> </ul>   | <b>10の政策分野それぞれに「みんなで取り組みたいこと」を追加。</b>   | 38<br>～  |
| 8   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <b>生産性の向上を強く意識する必要</b>があると考え。具体的には、科学技術を社会に取り込むということ。人が少なくなる中で、生産性を上げないと、今の豊かさを維持できない。</li> <li>・ <b>県北、沿岸の新しい交通ネットワークは強み、チャンス</b>であり、県全体の幸福度アップにつながっていくと考えるので、前面に出してほしい。地域の資源や連携を活用できるよう、民間、市町村の支援も書き入れれば、地域に元気を与えることになるのではないか。</li> <li>・ <b>重要構想について、再生エネルギーだけでは雇用は生まれない</b>。食を生かすことなどが必要ではないか。</li> </ul> | <b>第6章 新しい時代を切り拓くプロジェクト</b><br><br><b>11のプロジェクトを具体化</b><br><br>(P75北上川バレープロジェクトにおける第4次産業革命技術の導入促進、P78三陸防災復興ゾーンプロジェクトにおける多様な交通ネットワークの活用、P81北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクトにおける食産業、アパレル産業、漆関連産業をはじめとする地域産業の展開など) | 72<br>～  |

## 2 アクションプランに反映したもの

| No. | 意見  | 該当プラン・箇所   | 頁        |
|-----|---|--|----------|
| 1   | 御所野遺跡が世界遺産に登録され、関係市町村、周辺市町村の連携がとれば経済効果の高まりも期待できるのではないか。観光ルート設定、中央への売込みなど、県に尽力をお願いしたい。 | 政策推進プラン<br>VI仕事・収入<br>35地域経済に好循環をもたらす観光産業を盛んにします<br><br>広域周遊ルートの構築など取組の方向性を具体的に記載。 | 169<br>～ |
| 2   | 県北圏域は農林水産業が主であり、ただ作るだけでは所得の向上につながらない。売込みを含む総合的な対策などは、単独の市町村では難しいので、県に尽力をお願いしたい。       | 38農林水産物の付加価値を高め、販路を広げます<br><br>6次産業化による高付加価値化や積極的な情報発信など取組の方向性を具体的に記載。             | 195<br>～ |
| 3   | 自然環境について、守り育てる取組が主の印象がある。自然を活用する環境教育など、能動的に活用していくことも必要ではないか。                          | VIII自然環境<br>42多様で優れた環境を守り、次世代に引き継ぎます<br><br>自然公園等の活用など取組の方向性を具体的に記載。               | 221      |

| No. | 意見   | 該当プラン・箇所  | 頁   |
|-----|--|---|-----|
| 4   | <p>・ <b>高速道路整備は縦軸は進んでいるが、横軸は進んでいない</b>。久慈・盛岡間は不便で遠い。県南が発展し、県北は置いていかれている状況と感じている。</p> <p>・ 内陸と沿岸の格差是正に向け、<b>内陸と沿岸を結ぶ交通網の整備が重要</b>と考える。釜石と花巻、宮古と盛岡の横軸は進んでいるが、<b>県北が弱い</b>と感じる。</p> <p>・ <b>道路整備について、「90分構想」が現在もあるはず</b>であり、取り残されることがないように検討してほしい。</p> <p>・ 4号線沿いは企業立地が進むが、働き手が確保できないと聞く。<b>南の横軸を整備し、沿岸から内陸に働きに行けるよう広い視点も必要</b>ではないか。</p> | <p><b>IX社会基盤</b><br/>47産業や観光振興の基盤となる社会資本を整備します</p> <p>産業振興や交流を支える道路整備など取組の方向性を具体的に記載。</p> | 248 |
| 5   | <p>・ 当町は、一人当たりの観光消費額が県平均より高く、県外客が要因と分析しており、県外との交流、つながりが大事と考える。</p> <p>・ 振興局単位では生活圏としては少し広く、市町村単位では多様化する行政課題を全て解決するのは難しい。県際連携について、広域連携を深める際の拠り所となるような県の計画の記述があるとより良いのではないか。</p>   | <p><b>地域振興プラン<br/>共通</b></p> <p>各圏域のプランに、他県等との連携や交流人口の拡大を記載。</p>                          |     |

| No. | 意見  | 該当プラン・箇所  | 頁  |
|-----|---|---|----|
| 6   | 県央地域の地域振興の取組方向について、 <b>食産業と観光をもっと掘り下げ</b> てほしい。                                   | <b>県央広域振興圏</b><br><b>7 観光・食・スポーツを連携させた交流促進により地域産業を活性化します</b><br><br>食における商品の高付加価値化や地元食材、酒蔵などの地域資源を生かした観光振興などの取組の方向性を具体的に記載。 | 45 |
| 7   | <b>水産加工業が厳しい状態</b> にあり、沿岸広域振興圏の取組方向に記載されている <b>業態転換の支援に、是非力を入れていただきたい。</b>        | <b>沿岸広域振興圏</b><br><b>11 漁業生産量の回復や水産物の高付加価値化により水産業を盛んにします</b><br><br>新商品開発や販路開拓、魚種転換等による原料確保など取組の方向性を具体的に記載。                 | 51 |
| 8   | ・ <b>県北圏域には、ダイナミックな事業が必要</b> と考える。例えば、ブローラー、日本酒など、縦割りを解消して食に切り込んだりすることなどが必要ではないか。 | <b>県北広域振興圏</b><br><b>全般</b><br><br>豊かな地域資源や新しい交通ネットワークを最大限生かす取組の方向性を具体的に記載。   |    |
| 9   | ・現在取り組んでいる「カシオペア探検隊」や「おもてなし課長」などを <b>ブラッシュアップ</b> していくことも必要ではないか。                 | <b>13 隣接圏域等と連携した広域観光を進めます</b><br><br>地域資源を生かした体験メニューなど取組の方向性を具体的に記載。  | 62 |

### 3 計画推進に当たって参考とするもの

| No. | 意見   | 長期ビジョン該当箇所   | 頁        |
|-----|--|--|----------|
| 1   | 観光面で、「十和田・八幡平国立公園」を、「 <b>八幡平国立公園</b> 」と <b>単独にする</b> 場合ではないか。三陸地域との連携やインバウンドの拡大につながると考える。  | 第2章 岩手は今<br>3 岩手の変化と展望<br><br>(「仕事・収入」分野の「強み・チャンス」)                                      | 17       |
| 2   | ・高校再編について、人口減少が進む中、クラス減はやむを得ないが、 <b>学力低下につながらないよう教員の確保</b> をお願いしたい。<br>・高校がなくなると、地域自体が存亡の危機となる。 <b>町村1高校の実現</b> をお願いしたい。   | 第5章 政策推進の基本方向<br>2 10の政策分野の取組方向<br><br>(「教育」分野の「児童生徒が安全に学ぶことができる教育環境の整備や教職員の資質の向上を進めます」) | 43       |
| 3   | <b>局地災害などの有事に備え、県、市町村の支援体制</b> をあらかじめ準備しておくことが必要と考える。  | (「安全」の分野の「自助、共助、公助による防災体制をつくります」)  | 50       |
| 4   | ・復興で沿岸の市町村が <b>結束し、新しい結び付き</b> ができ、可能性が広がっている。これらを踏まえれば、広域局の見直しの良いきっかけになるのではないかな。<br>・県南地区では、労働力確保が限界との声を聞く。 <b>盛岡圏域、県北圏域を含め、新しい視点で地域の特性を捉えていく必要</b> があるのではないかな。例えば、貨物ターミナルや内陸税関などを有効に活用して、盛岡、県南、県北の一大拠点を作ってはどうか。 <b>盛岡より北には可能性がある</b> と考える。 | (地域振興の基本的な考え方)   | 105<br>～ |